

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3114 号	氏 名	王 天 鵬
論文審査担当者	主査 村上 雅彦 教授 副査 泉崎 雅彦 教授 副査 扇谷 芳光 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>Direct acting antivirals (DAA) 治療により Sustained virological response (SVR) が得られた C 型慢性肝炎症例において発癌リスクを検討し適切なサーベイランスを構築することを目的とした。</p> <p>2014 年 10 月 1 日から 2018 年 7 月 31 日に DAA 治療を行った C 型肝炎 141 例を対象とし、治療前と治療終了から SVR 継続が 12 週持続した時点 (SVR12) における血液生化学的結果を用いて発癌に関わる因子の後方視的に検討を行った。SVR12 までに発癌した症例は除外した。治療前の血小板数 10 万以下を肝硬変とし 10 万より多い症例を慢性肝炎として肝病態を規定した。画像検査は 3 から 6 ヶ月ごとに造影 CT もしくは造影 MRI 検査で評価を行った。</p> <p>128 例が SVR を得られ慢性肝炎は 102 例 (発癌例 7 例) であった。治療終了時から発癌評価までの観察期間は平均 748 日であった。Fibrosis-4 (FIB-4) index、AFP、PT% が単変量解析で発癌と相関したが FIB-4 index のみが多変量解析で有意差を認めた ($p=0.04$)。特に FIB-4 index 3 以上が発癌に関わる因子であり ($p=0.005$)、3 未満と 3 以上の累積発癌率は 2.6%/1000days と 24.2%/1000days であり明確に層別化が行えた ($p=0.004$)。</p> <p>症例数、観察期間の積み重ねが必要であるが、C 型慢性肝炎において FIB-4 index が 3 以上であれば発癌高リスクとして SVR 後も定期的にサーベイランスが必要と考えられた。</p> <p>本研究は新知見が含まれており、学位論文に値すると判定した。</p> <p>論文題名 : Simple stratification of hepatocellular carcinoma surveillance after direct-acting antiviral therapy for chronic hepatitis C (C 型慢性肝炎に対する direct-acting antiviral 治療後の発癌サーベイランスの層別化の検討)</p> <p>掲載雑誌名 : THE SHOWA UNIVERSITY JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES VOL. 32 NO. 2 JUNE 2020</p>			

(主査が記載、500 字以内)